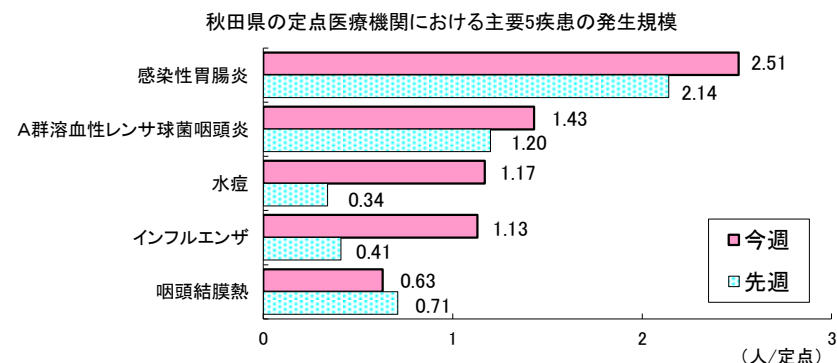




【第49週の発生動向】

< 定点把握対象疾患(週報)・前週比 >

- 1. 感染性胃腸炎は、県全体で17%増加しています。保健所別では、秋田市、北秋田、能代、由利本荘で増加、大館、秋田中央、大仙、横手、湯沢で減少しています。
2. A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、県全体で19%増加しています。保健所別では、秋田市、北秋田、能代、横手で増加、大仙で同規模、秋田中央、由利本荘、湯沢で減少しています。
3. 水痘は、県全体で3.4倍に増加しています。保健所別では、秋田市、大館、由利本荘、横手、湯沢で増加、秋田中央、大仙で同規模となっています。



発生報告

< 五類定点対象疾患(週報) >

Table with columns for disease names and prefecture/city (Akita Prefecture, Akita City, Oguni, Kita-Akita, Noshiro, Akita Central, Yuribayashi, Oshino, Yonezawa) and rows for various diseases like RS virus infection, influenza, pharyngitis, etc.

(注) 表の数値は、観測定点としている県内の医療機関から報告された患者報告数を、1定点あたりに換算した人数を示し、前週と比べて「↑」は増加を、「↓」は減少していることを示します。

「*」印は、当該疾病に関わる定点医療機関が指定されていないことを、空欄は全ての定点で当該週における患者の報告数がなかったことを示します。



発生報告

<全数把握対象疾患>

- ・二類感染症の結核が秋田市保健所管内から3人、湯沢保健所管内から2人、報告されました。
- ・四類感染症のレジオネラ症が横手保健所管内から1人、報告されました。
- ・五類感染症の侵襲性インフルエンザ菌感染症が秋田市保健所管内から1人、水痘(入院例に限る)が横手保健所管内から1人、百日咳が横手保健所管内から8人、報告されました。

<全数把握疾患>

類型	疾患名	(人)		
		1週-48週 全国	秋田	49週 秋田
一類	エボラ出血熱			
	クリミア・コンゴ出血熱			
	痘そう			
	南米出血熱			
	ペスト			
	マールブルグ病			
	ラッサ熱			
二類	急性灰白髄炎			
	結核	20027	126	5
	ジフテリア			
	重症急性呼吸器症候群			
	中東呼吸器症候群			
	鳥インフルエンザ(H5N1)			
三類	コレラ	4		
	細菌性赤痢	232	1	
	腸管出血性大腸菌感染症	3743	56	
	腸チフス	34		
	パラチフス	22		
四類	E型肝炎	414	3	
	ウエストナイル熱			
	A型肝炎	888		
	エキノкокクス症	12		
	黄熱			
	オウム病	6		
	オムスク出血熱			
	回帰熱	6		
	キャサヌル森林病			
	Q熱	3		
	狂犬病			
	コクシジオイデス症	2		
	サル痘			
	ジカウイルス感染症			
	重症熱性血小板減少症候群	75		
	腎症候性出血熱			
	西部ウマ脳炎			
	ダニ媒介脳炎	1		
	炭疽			

トピック

<インフルエンザの流行が始まりました！>

インフルエンザの報告数が、県全体で流行開始の目安となる定点あたり1を超え、流行期入りしました。インフルエンザウイルスに感染すると、咽頭痛や咳に加えて、高熱(38℃以上)、頭痛、関節痛、全身倦怠感などの症状が現れます。通常の風邪よりも全身症状が強いことが特徴です。今後、年末年始を迎え人の移動が多くなることで、流行はさらに拡大すると予想されます。次の衛生管理のポイントを押さえて、感染の予防に努めましょう。

(1) 咳エチケット

- ・咳やくしゃみが出るときはマスクをしましょう。とっさの咳やくしゃみはティッシュや腕の内側で受けるようにして、顔を他の人に向けないようにしましょう。
- ・咳やくしゃみを受けたティッシュはフタ付きのゴミ箱に捨てましょう。手で受けた場合は他に触れないようにして、すぐに手をよく洗いましょう。

(2) 外出後の手洗い

外出から帰宅した時は、流水と泡だてた石けんでしっかりと手を洗いましょう。付着したウイルスを手洗いで物理的に除去することにより、接触・飛沫感染を防ぐことができます。また、インフルエンザウイルスには**アルコールによる手指消毒**も効果的です。

(3) 適度な湿度管理

空気が乾燥すると、気道粘膜の防御機能が低下して感染症にかかりやすくなります。加湿器などを使用して、室内を**適切な湿度(50~60%)**に保ちましょう。

(4) 十分な休養とバランスのとれた栄養摂取

体の抵抗力を高めるために、日ごろから十分な休養とバランスのとれた栄養摂取を心がけましょう。

(5) その他

高齢の方や基礎疾患のある方、乳幼児、妊婦、疲労気味・睡眠不足の方は、感染や重症化のリスクが特に高いとされています。インフルエンザの流行中は、できる限り人混みへの不要な外出を控えましょう。やむを得ず人混みに入る場合は、マスクを着用するなど、感染予防を心がけてください。

類型	疾患名	(人)		
		1週-48週 全国	秋田	49週 秋田
四類	チクングニア熱	3		
	つつが虫病	305	5	
	デング熱	185		
	東部ウマ脳炎			
	鳥インフルエンザ(H5N1、H7N9を除く)			
	ニパウイルス感染症			
	日本紅斑熱	294		
	日本脳炎			
	ハンタウイルス肺症候群			
	Bウイルス病			
	鼻疽			
	フルセラ症	3		
	ベネズエラウマ脳炎			
	ヘンドラウイルス感染症			
	発しんチフス			
	ポツリヌス症	2		
	マラリア	47		
	野兔病			
	ライム病	13	1	
	リッサウイルス感染症			
リフトバレー熱				
類鼻疽	2			
レジオネラ症	2009	8	1	
レプトスピラ症	30			
ロッキー山紅斑熱				
五類	アマーバ赤痢	764	1	
	ウイルス性肝炎(E型及びA型を除く)	236	3	
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	2047	9	
	急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く)	120		
	急性脳炎	594	6	
	クリプトスポリジウム症	24		
	クロイツフェルト・ヤコブ病	194	1	
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	627	5	
	後天性免疫不全症候群	1177		
	ジアルジア症	66	1	
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	435	5	1
	侵襲性髄膜炎菌感染症	32		
	侵襲性肺炎球菌感染症	2957	17	
	水痘(入院例に限る)	411	6	1
	先天性風しん症候群			
	梅毒	6376	16	
	播種性クリプトкокクス症	167	1	
	破傷風	120		
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症			
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	72		
百日咳	10360	94	8	
風しん	2454	5		
麻しん	267			
薬剤耐性アシネトバクター感染症	23			



2018年/2019年シーズン (2018年第36週: 9月3日～)
インフルエンザ情報

定点あたり患者数の推移(インフルエンザサーベイランス)

インフルエンザの発生規模が、流行の目安である1を超え、流行期に入りました。
今後の発生規模に注意し、手洗い等の感染予防を心がけましょう。

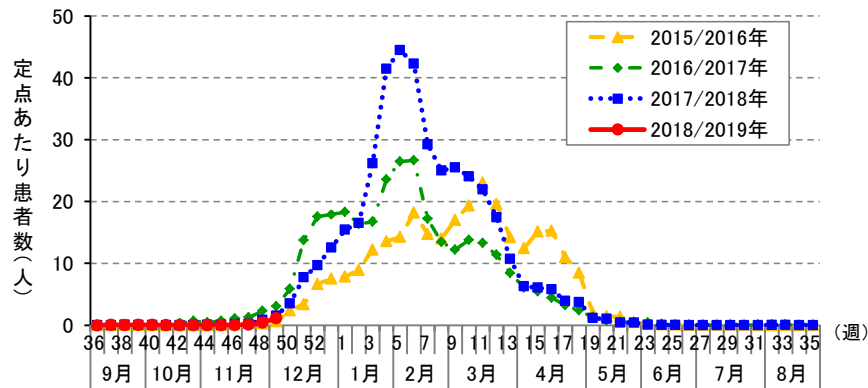


図 秋田県におけるインフルエンザ患者の発生状況

インフルエンザ入院サーベイランス

表: 2018/2019シーズン
秋田県におけるインフルエンザによる入院患者報告数

患者数 (人)			
秋田県		全国	
12/3～12/9 (49週)	累計	11/26～12/2 (48週)	累計
2	2	61	294

○入院サーベイランスの報告数は、秋田県内8カ所、全国約500カ所の基幹定点医療機関からの報告です。全国の報告数は公表前のため、1週間遅れの数値になります。

社会福祉施設等におけるインフルエンザ集団発生状況

インフルエンザによる集団発生が3件報告されました。

所在地	施設名称	報告日	有症者数		
			利用者(園児)	職員	計
秋田市	第一ルンビニ園	12/3	165名のうち11名	43名のうち0名	11名
秋田市	城南園	12/4	71名のうち11名	26名のうち0名	11名
秋田市	秋田保育所 ひまわり保育園	12/7	77名のうち10名	22名のうち0名	10名

○今シーズンの報告状況
累計施設数 3: 保育所 3

<参考>
○昨シーズンの報告数
累計施設数 170: 社会福祉施設 44、保育所・幼稚園 119、病院 7

※原則、10人以上または利用者の半数以上の発生報告です。

感染症の集団発生報告

かぜ様症状の集団発生報告が1件ありました。

所在地	施設名称	報告日	有症者数			把握期間
			利用者	職員	計	
北秋田市	指定障害者支援施設 阿仁かざはり苑	12/3	78名のうち37名	52名のうち2名	39名	11/26～12/3



感染性胃腸炎情報

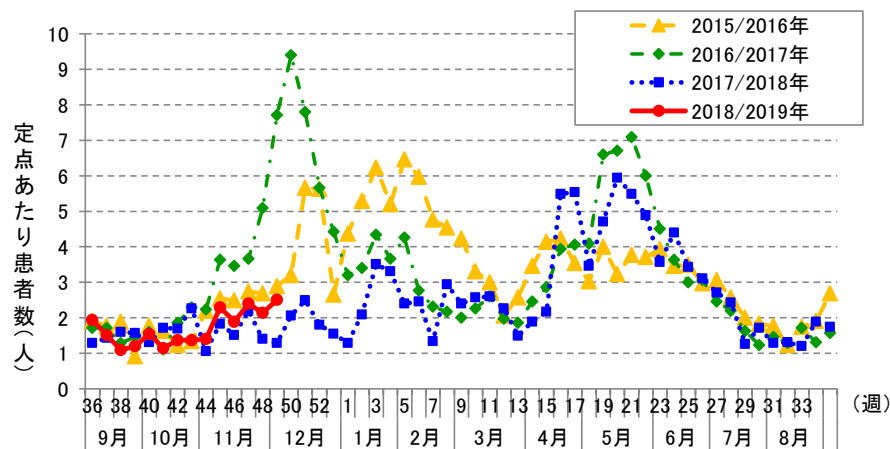


図: 秋田県における感染性胃腸炎の発生状況

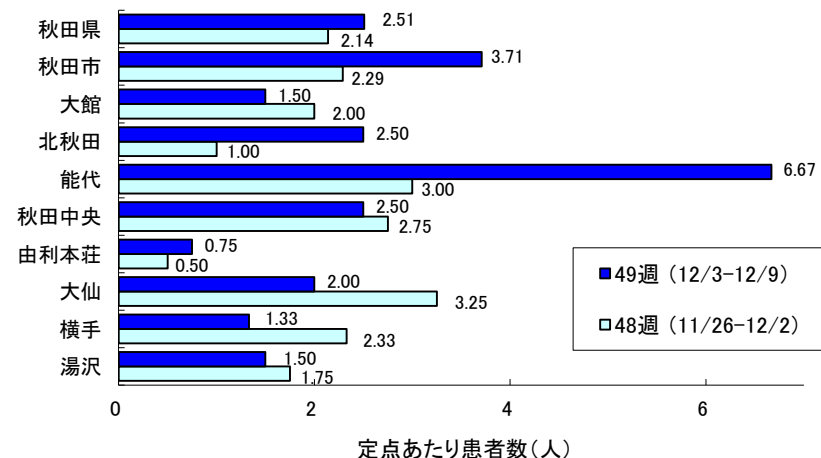


図: 秋田県各保健所における感染性胃腸炎の発生状況

社会福祉施設等における感染性胃腸炎の集団発生について

感染性胃腸炎の集団発生報告が3件ありました。

No	所在地	施設名	報告日	有症者数			把握期間	症状	備考
				利用者(園児)	職員	計			
27	五城目町	もりやまこども園	12/3	188名のうち15名	48名のうち2名	17名	11/29 ~ 12/3	腹痛、嘔吐、下痢	-
28	にかほ市	幼保連携認定こども園に賀保	12/7	86名のうち16名	28名のうち0名	16名	12/6 ~ 12/7	嘔吐	3名からサポウイルスを検出
29	大館市	たしろ保育園	12/7	128名のうち9名	40名のうち1名	10名	12/2 ~ 12/7	腹痛、嘔吐、下痢	-

【感染性胃腸炎の集団発生状況】

○平成30年度 28施設 発症者 414名
保育所・幼稚園 28

<参考>

○平成29年度 42施設 発症者 637名
社会福祉施設 8、保育所・幼稚園 34

※原則、10人以上または利用者の半数以上の発生報告です。



【注意報・警報の発生状況】

疾患名	注意報	警報
	保健所(発生規模)	保健所(発生規模)
咽頭結膜熱	-	北秋田(1.00)
水痘	秋田市(1.43)、横手(1.33)	大館(3.00)、湯沢(2.50)
伝染性紅斑	-	大館(4.00)

■ 注意報・警報の定義

【注意報・警報の定義】

- 1) 注意報: 流行の発生前であれば今後4週間以内に大きな流行が発生する可能性があることを示し、流行の発生後であればその流行がまだ終わっていない可能性がある(終息していない)ことを示します。
- 2) 警報: 大きな流行の発生・継続が疑われることを示します。

対象疾患	注意報	警報		対象疾患	注意報	警報	
	基準値(人/定点)	開始基準値(人/定点)	継続基準値(人/定点)		基準値(人/定点)	開始基準値(人/定点)	継続基準値(人/定点)
インフルエンザ	10	30	10	伝染性紅斑	-	2	1
咽頭結膜熱	-	3	1	ヘルパンギーナ	-	6	2
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	-	8	4	流行性耳下腺炎	3	6	2
感染性胃腸炎	-	20	12	急性出血性結膜炎	-	1	0.1
水痘	1	2	1	流行性角結膜炎	-	8	4
手足口病	-	5	2				

■ 保健所地域

保健所	所管市町村	保健所	所管市町村
大館保健所	大館市、鹿角市、小坂町	由利本荘保健所	由利本荘市、にかほ市
北秋田保健所	北秋田市、上小阿仁村	大仙保健所	大仙市、仙北市、美郷町
能代保健所	能代市、藤里町、三種町、八峰町	横手保健所	横手市
秋田中央保健所	男鹿市、潟上市、五城目町、八郎潟町、井川町、大潟村	湯沢保健所	湯沢市、羽後町、東成瀬村
秋田市保健所	秋田市		